

過疎農村における市民主導まちづくりの取り組み  
～山梨県北杜市須玉町津金地区を事例として～

山梨大学大学院医学工学総合教育部 学生会員 ○佐成屋 匡哲  
山梨大学大学院医学工学総合研究部 正会員 大山 勲  
江戸川大学社会学部 非会員 鈴木 輝隆  
NPO 法人文化資源活用協会 非会員 高橋 正明

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

まちづくりにおいて、活動の現場における試行錯誤の積重ねが大事であると言われている。

本研究は、実際に活動に参加した体験を踏まえ、活動のターニングポイントや課題などを整理することにより、まちづくりにおいて有効な活動を行うための要素を抽出することを目的とする。

1.2 方法

市民主導のまちづくりの事例の一つである山梨県北杜市須玉町津金地区で行われている活動を研究対象として取り上げる。

- ① 活動の歴史をまとめる
- ② 転機（ターニングポイント）の抽出と考察

2. 対象地の現状

山梨県北杜市須玉町津金地区は、八ヶ岳の麓、標高約 800m に位置する人口約 600 人の静かな農村である。

この地域は、約 300 軒のうち、空き家 41 軒、独り暮らしの世帯 38 軒と<sup>2)</sup>、過疎・高齢化が進み、空き家の問題など様々な問題を抱えている。



図1 対象地の地図



図2 津金地区の集落

地域外に住む人も参加する地域活動を NPO 法人「文化資源活用協会」<sup>(1)</sup> を中心にスタートさせ、次第に広く住民の理解も深まり、活動が活発になりつつある。

3. 活動の歴史

津金地区における活動の歴史を表 1 にまとめた。

表 1 主なまちづくり活動の歴史

年度	概要
1999	「文化資源活用協会」発足
2000	NPO として山梨県より認可
2002	NPO への地域住民の加入
2003	ローカルデザイン研究会の映像記録開始……………①
2004	津金竹研究会(地域で採れる竹を用いた教室)
	学生との交流開始(表 2 参照)……………②
2005	日本財団助成「郷土学」企画事業-景観・民家再生事業
	須玉食文化を考える会と学生の「蕎麦打ち体験」交流会
	つがね・地域マップづくり(子供・地元住民・大学生)
	ローカルデザイン研究会にて活動発表
	ワークショップ「古民家復元」……………③
2006	須玉歴史資料館の指定管理事務開始
	須玉歴史資料館内にカフェ津金文庫オープン
	大学合同里山ワークショップ
	空き家(なかや)の土壁塗り
	須玉食文化を考える会と学生の「餅つき」交流会

4. ターニングポイントの抽出

ターニングポイントとして以下の 3 点が考えられる。(表 1 中の①～③に対応する。)

- ① ローカルデザイン研究会(以下 LD 研究会)<sup>(2)</sup>へ映像記録のために参加するようになったこと。
- ② LD 研究会に参加していた大学生が地域を訪れるようになったこと。
- ③ ワークショップ「古民家復元」において、築 150 年以上にもなる空き家(なかや)の再生・修復がスタートしたこと。

キーワード：市民参加型まちづくり 過疎農村 高齢化 空き家

連絡先：山梨大学工学部土木環境工学科 (〒400-8511 山梨県甲府市武田 4-3-11 E-mail: g06mc012@ccn.yamanashi.ac.jp)

## 5. 考察

### 5.1 LD 研究会への参加

LD 研究会の映像記録を開始する以前は、遺跡などの発掘作業を中心に活動していた。しかし、LD 研究会に参加することによって、活動の対象がまちづくり(空き家対策)へと転換するようになった。地域外の活動に参加することによって、自分の地域で何をすべきかが見えてくる。

よって、地域外との交流が大切であり、「地域外ネットワーク」が重要であると考えられる。

### 5.2 大学生との交流

LD 研究会で知り合った学生を中心に法政大、静岡大、山梨大等の学生が季節ごとに、毎回 15 名程度、1泊2日で津金地区に滞在し、様々な活動を行っている。これまでの学生との交流の内容を表2に示す。

交流会や地域住民宅への民泊などの活動を重ねることによって、活動に参加する住民も増え、理解も深まった。また、学生が訪れ、交流を持つことによって高齢者も元気になっている。

田舎でできる様々な体験に興味のある大学生と若い人との交流を楽しみにしている地域住民がうまくかみ合い機能していると言える。

よって、地域に刺激を与える「地域外からの協力」も重要であると考えられる。

表2 学生との交流の内容

2004 春	お花見、講演会
2004 夏	竹林整備、交流会、民泊、スケッチ大会
2004 秋	りんご祭、交流会、民泊、旅するスクール
2005 冬	針供養、交流会、卒がね式、空き家宿泊
2005 春	講演会、スケッチ大会、交流会、空き家宿泊
2005 夏	蕎麦打ち体験、交流会、講演会、そうめん流し、スケッチ大会、空き家宿泊
2005 秋	交流会、民泊、りんご祭手伝い、津金 CM
2006 冬	ワークショップ「古民家復元」、交流会
2006 夏	そうめん流し、散歩、交流会、空き家宿泊、里山ワークショップ
2006 秋	餅つき、交流会、民泊、りんご祭(手伝い、屋台)

### 5.3 ワークショップ「古民家復元」

この活動には、昔から地域で行われていた「結い」によって行われることを目標として、学生や地域住

民など様々な人が参加・協力している。

この活動の他にも地域内の団体と共同でいくつかの活動も行われた。協力しながら物事を進めていくとアイデアも豊富になり、多種多様な活動ができる。

よって、地域内の団体と活動できる「地域内ネットワーク」も重要であると考えられる。



図3 古民家再生を目指す「なかや」

## 6. 津金地区における活動の今後の課題

今後の課題としては、以下の2点が考えられる。

- ① 学生との交流をいかに続けていくか。  
→ 現在、訪れている学生も卒業してしまう。
- ② 地域に残るその他の資源(里山、竹林など)をいかに整備していくか。

## 7. まとめ

有効な活動を行う為の要素は、以下の3点である。

- ・地域外を知ることのできる「地域外ネットワーク」
- ・地域に刺激を与える「地域外からの協力」
- ・地域内の団体と活動できる「地域内ネットワーク」

## 8. 終わりに

本研究では、津金地区における活動を整理し、有効な活動を行うための要素を確認した。その上で地域住民とのパイプ役になるような地域に顔が利くような人の存在の重要性も改めて大切だと感じた。

今後の研究課題として、地域住民とのパイプ役になるような地域に顔が利く人の人柄・役割などについて調べていきたい。

## 補注

- (1) 個人の経験や技術といった埋もれた地域資源を有効に活用することを目的として、地域の課題を解決することを目指している
- (2) 月1回東京で開催、全国各地様々な形で活動している人をゲストスピーカーとして招き、地域のまちづくりの実例を紹介している

## 参考文献

- 1) 大野真平:「農村過疎地域における空き家対策のための住民意識の調査 山梨県北杜市須玉町津金集落を事例にして」, 関東支部技術研究発表会講演概要集 Vol.32,p121-122,2005
- 2) 文化資源活用協会:うらやましいつがね, 2006
- 3) 鈴木輝隆:ろーかるでざいんのおと, 全国林業改良普及協会, 2005